



現代社会学部

学部長からの挨拶

学部長

辻井 正次

社会の認識から社会への貢献、
そしてあるべき社会の形を構想する。

社会学(および、その関連領域)を学ぶということは、どういうことなのでしょう?まずは、今の日本の社会の実態を知ることがあります。社会学の学びは、たんなる暗記型の学習ではなく、時代の変化を読み解き、変化に対応する力を養うようなのびやかな学びです。同時に、社会で生きている人びとに共感する感受性を養い、人びとの抱えている問題に気づくことにもつながるような学びです。そうした学びは、自分の活動を通じて社会とつながりたい、社会に貢献したいという思いや、さらには社会そのものをもっと望ましい姿に変えていきたいという考えにも発展していきます。現代社会学部は、こんな思いを込めて、変化する時代に対応した新しいカリキュラムでの教育を提供しています。

Learning Point



社会を変えていくために まずは1冊の本を読み上げよう

自分と対話し、さらに社会と対話する。さらには社会に貢献し、社会を変えていく活動をおこなっていくためには、ある程度専門的な言葉を駆使する力、情報を処理する技能、さらには論理的な表現力が必要です。現代社会学部が用意している2年生からの少人数のゼミナールやフィールドワーク、社会調査などでの学習や実社会とのふれあいの体験は、そうした言葉・技能・表現力を身につけるのに、大いに役立つと信じています。でも、その前提として、書物から常に先人の蓄積した理論や事実を学びとる意欲と慣習をもっていることも大切です。下にリストアップした本は、皆さんが入学後にどの専攻で何を学び、どんな活動をするにせよ、その基礎として役立つものばかりです。さあ、入学前に学術的な書物を一冊読み上げたという充実感を自分のものにしてください。